

Course number		U-LAS62 10003 PJ17					
Course title (and course title in English)	森里海連環学実習Ⅰ：芦生研究林 - 由良川 - 丹後海のつながりを探る Field Study on Connectivity of Hills, Humans and Oceans I :Field Study on Connectivity of Ashiu Research Forest, Yura River and Tango Bay				Instructor's name, job title, and department of affiliation	Field Science Education and Research Center Professor,YAMASHITA YOH Field Science Education and Research Center Professor,TOKUCHI NAOKO Field Science Education and Research Center Professor,MASUDA REIJI Field Science Education and Research Center Associate Professor,ISE TAKESHI Field Science Education and Research Center Senior Lecturer,SAKANOE NAO Field Science Education and Research Center Assistant Professor,NAKANISHI ASAMI Field Science Education and Research Center Associate Professor,KAI YOSHIKI Field Science Education and Research Center Assistant Professor,SUZUKI KEITA Field Science Education and Research Center Associate Professor,Ishihara Masae Field Science Education and Research Center Program-Specific Assistant Professor,SAWADA HIDEKI	
Group	Interdisciplinary Sciences			Field(Classification)	Studies on Connectivity of Hills, Humans and Oceans		
Language of instruction	Japanese			Old group	Group B	Number of credits	2
Hours	60	Class style	Practical training (Face-to-face course)		Year/semesters	2025・Intensive, First semester	
Days and periods	Intensive August 6-10		Target year	All students		Eligible students	For all majors
[Overview and purpose of the course]							
我が国は海に囲まれた森の国である。森林に降った雨は里域で田畑を涵養し、様々な人間活動に伴う負荷を受けた後に河川に流入して沿岸域へ流れ込む。そのため、陸上生態系のあらゆる変化が河川を通して集積され、最終的には沿岸海洋域の生態系に影響を与える。本実習では、由良川を実習フィールドとして、芦生研究林内の源流から河口（丹後海）までの環境と生態調査を行い、森や都市などの陸域の構造や人間による利用が、河川の水質、動植物の組成や生態にどのように影響しているかを調べる。森林域では森林構造の観察、里域では流域の利用実態を調べ、河川～河口域では環境観測と水質（栄養塩）分析、魚類、水生昆虫、エビ・カニ類、プランクトンなどの生物採集を行う。採集した動植物の種類を同定し、魚類の消化管内容物を分析する。これらの調査結果を総合して、森林域から河川を通して河口域へ至る生態系の変化を解析し、森 - 里 - 海の連環について考察する。							
[Course objectives]							
・森林観察、環境観測、魚類採集、底生動物採集、プランクトン採集などのフィールド調査手法を習得する。 ・各種水質項目の分析、採集した動物の観察と同定、胃内容物の観察と食性分析など、フィールド採集された標本を分析する手法を習得する。 ・フィールドデータの解析手法を学習する。 ・多様な環境データ及び生物データを用いて、生態系間の連環のメカニズムを解析する手法を学ぶ。							
<div style="text-align: right;">Continue to 森里海連環学実習Ⅰ：芦生研究林 - 由良川 - 丹後海のつながりを探る(2)</div>							

[Course schedule and contents]

8月6日(火)～8月10日(土)の日程で実施の予定である。

1日目：朝 京大北部キャンパス集合、バスで芦生研究林へ移動、芦生研究林森林構造観察、由良川源流調査(魚類、水生昆虫、水質など)
2日目：由良川上・中流調査(魚類、水生昆虫、プランクトン、水質など)
3日目：午前中は由良川下流・河口調査(魚類、甲殻類、プランクトン、水質など)、午後は舞鶴水産実験所にて水質分析、生物分析
4日目：舞鶴水産実験所にて水質分析、生物分析、データ整理
5日目：データ整理、レポート作成と報告会、午後京大北部キャンパスへバスで移動、午後5時頃到着予定

[Course requirements]

None

[Evaluation methods and policy]

実習への取り組みの様子とレポートで評価する。配点については実習開始時の講義において説明する。
成績報告が他の前期科目より遅れる場合があるので注意。

[Textbooks]

Instructed during class
準備したテキストを配布する。

[References, etc.]

(References, etc.)
京都大学フィールド科学教育研究センター『森里海連環学』(京都大学学術出版会)ISBN:978-4-87698-689-7 C3045
山下洋・田中克『森川海のつながりと河口・沿岸域の生物生産』(恒星社厚生閣)ISBN:978-4-7699-1075-6
京都大学フィールド科学教育研究センター『森と海をむすぶ川』(京都大学学術出版会)ISBN:978-4-87698-575-3

(Related URL)

<http://fserc.kais.kyoto-u.ac.jp/>

[Study outside of class (preparation and review)]

事前にテキストを配布するので、実習時の注意事項も含め十分に予習しておく。

[Other information (office hours, etc.)]

・事前説明会を開催するので必ず参加のこと。事前説明会に参加できない場合は原則として受講を認めない。
・京大・芦生研究林・由良川・舞鶴水産実験所・京大の移動は送迎バスで行うので、この間の交通費は不要。その他に、宿泊費、食費などの実費として10,000円程度の費用負担が見込まれる。
・必ず学生教育研究災害傷害保険(学研災)及び学研災付帯賠償責任保険(学研賠)に加入していること。
・本実習はフィールド科学教育研究センターの教育拠点公開実習としても実施されるため、他大学からの受講生も参加する。

森里海連環学実習Ⅰ：芦生研究林・由良川・丹後海のつながりを探る(3)

[Essential courses]